

TICKET INFORMATION

2026
9/19 東京交響楽団 第745回定期演奏会
 18:00開演
 17:30開場/休憩有り/20:30終演予定
サントリーホール

●チケット取扱い

TOKYO SYMPHONYオンラインチケット
<https://tokyosymphony.jp>

TOKYO SYMPHONYチケットセンター
 044-520-1511 (平日10:00~18:00/土日祝休)

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

チケットぴあ <https://pia.jp/t/tso/>

イープラス <https://eplus.jp/tokyoso/>

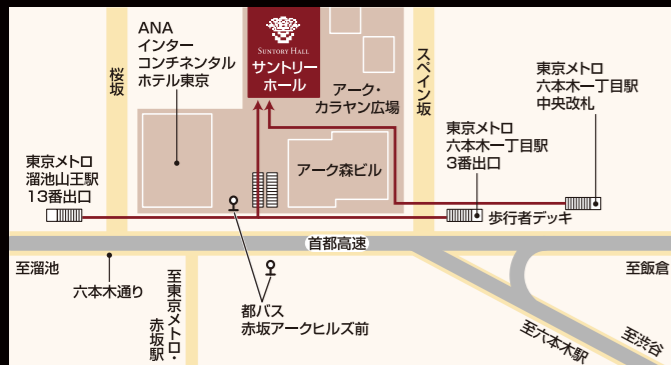
ローソンチケット <https://l-tike.com/tso/>

●料金 全席指定/税込 []内は東響会員料金
 S席 16,000円〔14,400円〕 A席 13,000円〔11,700円〕
 B席 10,000円〔9,000円〕 C席 8,000円〔7,200円〕

チケット好評発売中

- 選ぶプラン 20%引き
4公演以上、S・A・B席組合せ自由
- ハート割引 50%引き
(障害者手帳をお持ちの方とお付添い)
お電話でお申込ください
- 25歳以下
当日券1,000円
- マエストロシート(5組10名様)
18歳以下の学生無料招待席

主催:公益財団法人 東京交響楽団
 共催:サントリーホール
 助成:公益財団法人 アフィニス文化財団
 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
 公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団
 公益財団法人 花王 芸術・科学財団
 公益財団法人 朝日新聞文化財団
 後援:在日スイス大使館



サントリーホール

〒107-8403 東京都港区赤坂1-13-1
 Tel.03-3505-1001
<https://www.suntory.co.jp/suntoryhall/>

東京メトロ南北線 六本木一丁目駅3番出口 徒歩5分
 銀座線・南北線 溜池山王駅13番出口 徒歩8分

【チケットご購入にあたっての注意事項】※車椅子席数に限りがございますので、事前にお問合せください。※9/21ミュージアム公演の点字プログラムをご希望の方は公演の1か月前までにお申し出ください。(ミュージアム電話・カウンターのみでの受付)※公演詳細・館内設備・サービス等についての最新情報は、公式サイトでご確認ください。※出演者・曲目等の公演内容については変更が生じる場合がございますので、ご了承ください。※演奏中の入退場、写真撮影、録音等は固くお断りいたします。※出演者への花束・プレゼントのお預かりはいたしません。※公演中止の場合を除き、ご予約・ご購入いただきましたチケットのキャンセル・変更はお受けできません。※営利を目的としたチケットの転売は固くお断りいたします。※座席により、字幕が見えづらい場合があります。※未就学のお子様のご入場はご遠慮ください。9/21ミュージアム公演は、託児サービスがあります。(公演日1週間前までに要予約、有料)お問合せ・お申込み▶イベント託児@マザース Tel.0120-788-222(平日10:00~17:00/土日祝休)



2026
9/21 14:00開演
 13:00開場/休憩有り/16:30終演予定
ミュージアム川崎シンフォニーホール

●チケット取扱い

ミュージアム川崎シンフォニーホール
 ※ミュージアム友の会会員の先行予約・割引販売は印にて受付。

友 044-520-0200 (10:00~18:00)
 友 チケットカウンター (10:00~19:00)
 友 ミュージアムWebチケット <https://muza.pia.jp/>
 (24時間/火・水2:30~5:30を除く) ※発売日は10:00~

チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (24時間/火・水2:30~5:30を除く)

ミュージアム川崎・イープラス <https://eplus.jp/kawasaki/>

TOKYO SYMPHONYチケットセンター
 044-520-1511 (平日10:00~18:00/土日祝休) ※一般発売日から販売開始

●料金 全席指定/税込 []内はミュージアム友の会会員料金
 S席 16,000円〔14,400円〕 A席 13,000円〔11,700円〕
 B席 10,000円〔9,000円〕 C席 8,000円〔7,200円〕

U25(小学生~25歳)各席種半額(友の会割引なし/ミュージアムとびあのみ販売)

●発売日 ※友の会先行発売初日は電話予約、Webのみで販売(10:00~)。

ミュージアム友の会先行	ミュージアムWeb先行	一般発売
5/4 (月・祝)	5/7 (木)	5/12 (火)

主催:川崎市、ミュージアム川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)
 共催:公益財団法人 東京交響楽団



ミュージアム川崎シンフォニーホール

〒212-8557 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
 Tel.044-520-0100(代) Fax.044-520-0103
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/>

JR川崎駅 中央西口直結

ミュージアム川崎シンフォニーホール×東京交響楽団×ロレンツォ・ヴィオッティ

フランツ・シュミット
オラトリオ
7つの封印の書

Franz Schmidt "Das Buch mit sieben Siegeln"

(ドイツ語上演/日本語字幕付き)
 sung in German with Japanese subtitle

指揮:ロレンツォ・ヴィオッティ
 東京交響楽団 第4代音楽監督
 Lorenzo Viotti, Conductor
 (TSO 4th Music Director)

テノール(ヨハネ):マキシミアン・シュミット
 Maximilian Schmitt, Tenor as Johannes

バス(神の声):フランツ・ヨゼフ・ゼーリヒ
 Franz-Josef Selig, Bass for Stimme des Herrn

ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー
 Christina Landshamer, Soprano

メゾ・ソプラノ:カトリオーナ・モリソン
 Catriona Morison, Mezzo Soprano

テノール:パトリック・グラール
 Patrick Grahl, Tenor

バス・バリトン:クレシミル・ストラジヤナツ
 Krešimir Stražanac, Bass Baritone

パイプオルガン:大木麻理
 Mari Ohki, Pipe Organ

合唱:東響コーラス
 Tokyo Symphony Chorus

合唱指揮:富平恭平
 Kyohei Tomihira, Chorus master

管弦楽:東京交響楽団
 Tokyo Symphony Orchestra

新音楽監督ヴィオッティと挑む、唯一無二の壮大なオラトリオ

2026
9/19 18:00開演
 会場:サントリーホール
<https://tokyosymphony.jp>

2026
9/21 14:00開演
 会場:ミュージアム川崎シンフォニーホール
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/>

SEIBEN DAS BUCH MIT SEIBEN SIEGELN

Das Buch mit sieben Siegeln フランツ・シュミット オラトリオ 7つの封印の書

文: 広瀬 大介

フランツ・シュミット「7つの封印の書」とは・・・

フランツ・シュミット(1874-1939)。近年ではオーケストラの演奏会で4曲の交響曲が取り上げられる機会もちらほら観られるようになってはきているが、一般的な知名度は決して高いとは言えないだろう。フランスでフロラン・シュミットが同時期に活躍していたことも混乱の一因を生んでいる。晩年にナチス政府に協力したのではないか、という噂も、これまで作品の演奏機会に恵まれなかった理由に挙げられよう(ユダヤ人の友人たちによる反証で、この疑惑は晴らされつつある)。

フランツ・シュミットが亡くなる直前、1935~37年に創り上げたオラトリオ『7つの封印の書』は、20世紀に作られた大規模作品として、近年その演奏機会が世界的に増えている。長大な楽曲、大規模なオーケストラと合唱、数多くの独奏者を必要とすることからも、特別な機会に採り上げられる作品として上演の質が高く保たれやすいこと、録音として残ることも多いことなど、初演から90年近くを経て、その作品の真価がようやく多くのひとに知られるようになってきた。第二次世界大戦へと至る不気味な世相の中で作られた作品でもあり、先行き不透明な現代においてより一層の注目を浴びる要因になっている。

若い頃のフランツ・シュミットはウィーン宮廷歌劇場管弦楽団のチェロ奏者として、マーラーの指揮のもとで数多くの管弦楽作品・オペラ作品に触れる機会があった。さらにピアニストや教師など多角的な活躍を続けており、その並外れた才能と努力が、最晩年の傑作『7つの封印の書』で結実した。

新約聖書の中でも異質な内容のため、それまで大規模に作曲される機会の少なかった「ヨハネの黙示録」を題材とする全3部の長大な作品。ヨハネが受難曲の福音史家よろしくその世界をものがたり、静謐ななかにも力強い音楽、オルガンの間奏などが独特の世界観をかたちづくる。冒頭のモチーフが冒頭の7小節で7回繰り返され、この世界において「7」が特別な数字であることが印象づけられる。

宗教性を感じさせるグレゴリオ聖歌やオルガンの使用、20世紀作品を演奏し続けたシュミットが血肉としたモダンな和声進行やオーケストレーション、オペラ的な効果を生むドラマ性豊かな音楽運びなどが、シュミット独自の個性のもとでたくみにまとめられ、唯一無二の説得力を生んだ傑作オラトリオ。いま、東京交響楽団と新しい音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティ、すぐれた独奏者と合唱によって、いよいよその真価を顕わにする。

作品「7つの封印の書」の概要

プロローグ

作曲家によって「天国の序章」と題されたプロローグでは、「ヨハネの黙示録」1~5章が音楽化されている。第1章の緒言における神からヨハネへの黙示の啓示に続き、神の玉座では、天使から巻物を渡された子羊が封印を解いてゆく。

第1部

「黙示録」6~7章にあたる。第1部、第2部の冒頭にはオルガンソロが置かれ、間奏曲の役割を果たす。第1部では7つの封印のうち6つが子羊によって解かれ、人類の歴史が示される。第1の白い騎士(イエス・キリスト)によって教義が広められるも、地獄の軍勢を率いる第2の赤い騎士、飢饉を示す第3の黒い騎士、疫病を示す第4の蒼白い騎士によって世界は混沌へ。主は地震・洪水・世界大戦によって人間に死を与える(第5・6の封印)。

第2部 エピローグ

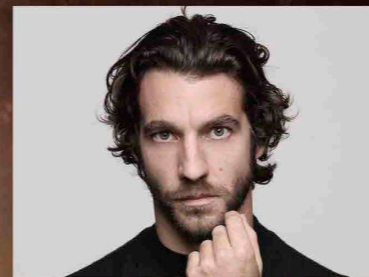
「黙示録」8~11章にあたる。オルガンソロの後、第7の封印が解かれる。大いなる静寂。ヨハネは救世主の誕生、悪魔の信奉者たちとの戦い、最終的な勝利までを物語る。ラッパを吹き鳴らす七人の天使。第7のラッパによって合唱が「いまやこの国は我らが主のもの」と喜びを歌う。エピローグは、神への感謝でプロローグの音楽が回帰し、ヨハネと合唱が「アーメン」と唱えて締めくくられる。

「7つの封印の書」事前講座開講! 講師: 広瀬大介(青山学院大学教授・音楽学)

【入門編】5月14日(木) 【上級編】8月25日(火) 各回14:00開演(16:00終了予定/途中休憩あり)

会場 ミューザ川崎4階 市民交流室 《各回120席限定》(全席自由)

※チケット情報はミューザ川崎シンフォニーホール公式サイトにてご確認ください。



©Jan Willem Kaldenbach

指揮:
ロレンツォ・ヴィオッティ(東京交響楽団 第4代音楽監督)
Lorenzo Viotti, Conductor (TSO 4th Music Director)

1990年スイス・ローザンヌ出身。カダケス国際指揮者コンクール、ライプツィヒMDR指揮者コンクールなどで優勝し、2015年ザルツブルク音楽祭にてネズレ・ヤング・コンダクター賞を受賞。グルベンキアン管弦楽団首席指揮者(2018~2021)、ネーデルラント・フィルハーモニー管弦楽団およびオランダ国立歌劇場首席指揮者(2021~2025)を歴任。これまでにウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ベルリン・シュターツカペレ、ミュンヘン・フィル、ロサンゼルス・フィル、クリーヴランド管などを指揮。オペラにおいてもウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座などに客演し、高い評価を得ている。2014年、東京交響楽団との共演で日本デビュー。初共演から10年を迎えた2024年8月、東京交響楽団次期音楽監督に任命され、2026/27シーズンより第4代音楽監督に就任する。2028年8月からはチューリッヒ歌劇場音楽総監督に就任予定。



©Christian Kargl

テノール(ヨハネ):
マキシミリアン・シュミット
Maximilian Schmitt, Tenor as Johannes

ドイツ出身。ベルリン芸術大学で学ぶ。バイエルン国立歌劇場、ミュンヘンオペラ、マンハイム国立歌劇場、オランダ国立歌劇場等でモーツァルトやワーグナーの主要作品を数多く歌う。モーツァルト、モンテヴェルディからメンデルスゾーン、マーラー等幅広いレパートリーを持ち、ノット、ウエルザー=メスト、ペレニコ等の指揮者陣のもと、チューリッヒ・ヒトナレ管、クリーヴランド管、ゲヴァントハウス管、バイエルン放聲、パリ管管等へ客演を重ねている。2018年ノット指揮東京交響楽団「ゲロンティアスの夢」(ゲロンティアス役)ではその圧倒的な美声が高く評価された。シュミット「7つの封印の書」は自らのレパートリーの一つとして手中に取めた作品である。



©Marco Borggreve

ソプラノ:
クリスティーナ・ランツハマー
Christina Landshamer, Soprano

ドイツのミュンヘン生まれ。同地の音楽院で学んだ後、シュトゥットガルト音楽演劇大学にて、コンラート・リヒターのリサイタルクラスとドゥーニャ・ヴェイゾヴィチのリストクラスで学ぶ。シュトゥットガルト州立歌劇場他で契約歌手を務めた後、ザルツブルク音楽祭でソプラノ指揮ベルリン・フィルと共演。アーノククール、プロムシュテットらトップレベルの指揮者たちと共演を重ね、オペラとコンサートで活躍する。宗教作品のソリストとしても活躍。プロムシュテットら名匠からの信頼も厚い。



©Guid Werner

テノール:
パトリック・グラール
Patrick Grahl, Tenor

ドイツ・ライプツィヒ生まれ。フェリクス・メンデルスゾーン・バルトルディ音楽演劇大学にてベルトルト・シュミットに声楽を師事。マスタークラスを優秀な成績で修了した。2016年ライプツィヒで開催された第20回国際ヨハン・セバスチアン・バッハコンクールで第1位。オラトリオ歌手として特に高い評価を得ており、ガーディナー、ラトル、ユロフスキー、ガッティ、メータ等の指揮者のもと、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ドレスデン・シュターツカペレ、サンタ・チェチリア国立アカデミー管、ロンドン響等と共演している。



©Mari Kusakari

パイプオルガン:
大木麻理
Mari Ohki, Pipe Organ

静岡市出身。東京藝術大学卒業、同大学院修了。DAAD、ホセール財団の奨学金を得てドイツに留学し、リューベック国立音楽大学、デトモルト国立音楽大学にて学ぶ。満場一致の最優等で国家演奏家資格を得て卒業。第3回ブクステフーデ国際オルガンコンクールでは日本人初の優勝。マインツ国際オルガンコンクール第2位、第65回「ブラハの春」国際音楽コンクールオルガン部門第3位、併せてチェコ音楽財団特別賞受賞。国内外の主要オーケストラ、アンサンブルと共演多数。2018年よりミューザ川崎シンフォニーホールオルガニスト。



©Marion Koell

バス(神の声):
フランツ=ヨゼフ・ゼーリヒ
Franz-Josef Selig, Bass for Stimme des Herrn

シリアス・バスという分野で世界的に最も名の知られた歌手の一人で、グルネマンツ、マルケ王、ザラストロ、ロッコ、オスミン、ダーラント、フィエスコ、ファアゾルト等を歌う。ケルン音楽舞踊大学で宗教音楽を学んだ後、エッセンのアルト劇場のアンサンブルメンバーとしてプロ活動をスタートした。バイエルン国立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、マドリッドのテアトロ・レアル、パリ・オペラ座、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場等世界のあらゆる有名歌劇場に出演している。一流の音楽祭にも登場しており、ティレマン、ラトル、メータ、ムーティ、ネゼ=セガン等の指揮者と共演を重ねている。



©Jeremy Knowles

メゾ・ソプラノ:
カトリオーナ・モリソン
Catriona Morison, Mezzo Soprano

スコットランド・エジンバラ生まれ。スコットランド王立音楽院とベルリン芸術大学で学ぶ。2015年、ザルツブルク音楽祭にフランツ・ウエルザー=メストによるヤング・シンガーズ・プロジェクトの一員としてデビュー。以降、エディンバラ国際音楽祭、ケルン歌劇場、ベルゲン国立歌劇場などに出演。BBCプロムスウィーン・フィルにもデビューを果たした。2024年、ノット指揮東京交響楽団「ばらの騎士」(オクタヴィアン役)で共演。美しく透明感のある歌声と豊かな表現力強い印象を残した。



©Patrick Voggl

バス・バリトン:
クレシミル・ストラジヤナツ
Křešimir Stražanac, Bass Baritone

クロアチア出身。シュトゥットガルト音楽演劇大学で学び、数多くの国際コンクールで優勝。これまでにプロムシュテット、サンティ、フェドセーエフ、ハイティンク、ホーネック等世界的な指揮者のもと、バイエルン放聲、コンセルトヘボウ管、フランクフルト放聲、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管等数多くのオーケストラと共演。23年にはペレニコ指揮ベルリン・フィルデビュー。25年ロサンゼルスフィルデビューした。2016年、ノット指揮東京交響楽団とプログラムズ「ドイツ・レイキエム」, 2017年モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」(マゼット役)で高評を得た。

DAS BUCH MIT SIEBEN SIEGELN



©青柳聡

管弦楽: 東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に改称し、現在に至る。2004年7月より、川崎市のフランチャイズオーケストラとしてミューザ川崎シンフォニーホールを拠点に定期演奏会や特別演奏会を開催し、市内での音楽鑑賞教室や巡回公演、川崎フロンターレへの応援曲の提供など多岐にわたる活動を行う。川崎市文化賞、文部大臣賞をはじめとする日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。新国立劇場開場時よりレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当し、教育面では「0歳からのオーケストラ」などが注目されている。海外公演も多く、ウィーン楽友協会を含む59都市83公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でミューザ川崎シンフォニーホールからライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴。2022年には史上最多45台カメラを用いた(第九)公演を配信した。2020年には「マッチングギフトコンサート」が川崎市の支援のもと開催され、自治体とオーケストラによる前例のない取組が注目を集めた。2014年シーズンより第3代音楽監督に就任したジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。「モーツァルト 演奏会形式オペラシリーズ」、ミューザ川崎シンフォニーホール開館15周年記念公演(グレの歌)に続き、「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾(サロメ)(2022年)が第2位、第2弾(エレクトラ)(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾「ばらの騎士」も大絶賛を博した。2026年4月より第4代音楽監督としてロレンツォ・ヴィオッティが就任する。